

具体的実践

(1) 6年生との交流

生活科における教育のイメージの中の「接続期の特性」として、『子供の生活の流れのなかで、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期』とある。

今年度の入学生13名は全員が大迫保育園出身なので、同学年の友達同士の関わりに不安は少ないと思われた。そこで、子ども達が学校にスムーズに適応していくための人的環境づくりの工夫として、学校のリーダーであり1年生との兄弟学年でもある6年生との交流を入学後すぐに行った。

さらに、1年生が6年生との関わることは、「お兄さん、おねえさんはすごいな。あんなふうになりたいな。」など、スタートカリキュラムがねらう『自立心の芽生え』にも繋がるものと考えた。

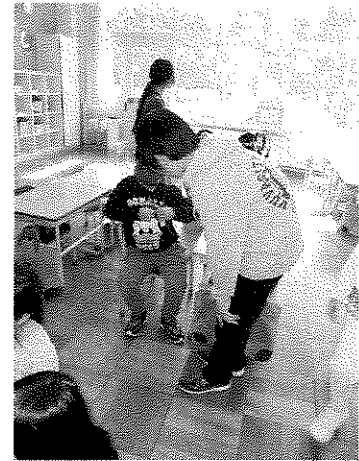
① 6年生への協力依頼 (4月7日)

② 6年生との交流 (4月11日～4月17日 登校時～8時15分)



名札がなかなかつけられない1年生を
6年生が優しく見守り、励ましてくれました。

6年生が、優しく読み聞かせをしてくれました。
1年生は、朝の準備が終わった子から、読み聞かせコーナーに集まります。保育園で習慣になっていた正座をして、お話に聞き入っていました。



○子ども達の感想

〈1年生〉

- ・本を読んでもらって、うれしかったです。
- ・名札をつけてもらってうれしかった！
- ・わからないことを教えてもらってうれしかったです。
- ・ジャンケンゲームが楽しかった！！

〈6年生 (感想用紙から)〉

みんな元気で、こっちもとても楽しかったです。本を読んで「たのしかった」と言われた時は、とてもうれしかったです。(男子)

1年生のお世話をしてとても楽しかったし、1年生も喜んでくれて、ほくもうれしかったです。これからもがんばってください。(男子)

少し緊張していた1年生だったけど、朝の準備を教えたら、「ありがとう」と言ってくれて、やりがいがあるし、すごく楽しかったです。また1年生と遊ぶ機会があったら、一緒に遊びたいです。(女子)

1年生はまだ分からないことがたくさんあると実感したので、時々お手伝いに行きたいです。(女子)

③ 6年生へのお礼 (4月18日)

(2) 保育園での学びを生かした指導の実践

「スタートカリキュラムの意義」の中に、『幼児期からの学びと育ちを生かす活動や環境を意図的に設定することで子供は自信や意欲をもって活動し、自己発揮できるようになる』とある。

そこで、朝活動からの時間帯に「にこにこタイム」を設定し、その中で保育園で親しんできた歌遊びや手遊び、ゲーム、絵本や紙芝居の読み聞かせ等を取り入れ、安心して1日のスタートを切ることができるようにした。

また、保育園で学んできたことを意図的に聞き出し、それらを学校の暮らし方や学びへと繋ぐことで自信と意欲を持って小学校生活へ移行できるように配慮した。

○「にこにこタイム」歌遊びの実践

☆ リラックスをねらって ～音楽・国語・算数の要素を取り入れて～ 『おべんとぼこの歌』

様々な歌遊びを楽しんだが、「♪これっくらいのおべんとぼこに～♪」のうたを子ども達は特に気に入った。元々の歌詞の他に「8ははちみつ！」「9はきゅうり！」「10はとうもろこし！」など、次々に歌詞を加え、数字と言葉遊びの楽しさを味わい、笑顔で1日のスタートを切った。



○保育園での学びを生かす学習の事例

☆国語 『こえのおおきさどうするの』

「がっこうでは、色々な声の大きさを使います』『保育園でも声の大きさがあつたよ』『どんなときに、どんな声を使ったの？』『0の声は、年少さんがお昼寝のときの声』『1の声もお昼寝の時で、とっても小さい声』『2の声は普通の声』『3の声は、園のお外であそぶときのこえでした』『学校でも保育園の時と同じように、どんな時かな、どんな場所かな、誰に話すのかな、と考えて声の大きさを工夫していきましょう』『はい、できそうです』